

令和5年度 学校評価 北小学校パワーアッププラン

1 目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	教育目標 未来に向かって、一人ひとりが輝く北っ子の育成 ～ 考え動き 人とつながり やりぬく子 ～
本年度の重点目標	○主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業と考え動く特別活動の充実を図ります ○児童との絆づくり・居場所づくりを進め、安全・安心な学校を推進します ○地域と協働し、地域も学校も元気になる取組を推進します

2 自己評価（達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善）

領域	観点	評価項目	達成状況	学校の取組状況と改善の方策
学校運営	兵庫型学習システム	多くの教師による多面的な理解に基づく指導や複数学年を見通した系統的な指導を行い、どの児童も意欲的に学習に取り組める支援を進める。	B	教科担任制が定着し、多くの教師と学べることを児童は楽しみにしている。保護者からも肯定的な評価を得ている。また多面的な見方や支援により生活指導にも結び付け指導を多くの職員で行うことができた。系統的な指導が効果を上げ、学習の定着度が上がっている一方、日々の宿題や基礎基本の習得に課題のある児童の支援を模索する必要がある。教科担任制による負担が大きくなった部分もあるので、運用の仕方のさらなる改善が必要である。
	地域住民との連携	「地域とともにある学校作り」を目指して、学校運営協議会をもとに地域の思いを汲んで、学校の教育活動への積極的な参加を促進していく。	B	校舎改修の引っ越し作業では、多くの方にボランティアとして協力していただいた。制限された教育環境のもとでも、各学年や学校行事などに多くのゲストティーチャーに関わっていただけた。また、自治振興会と連携して、地域行事への参加を推進することができた。今後は事業内容の見直しや、あらたな教育活動への参画を進めながら、より一層、地域とともにある学校作りを進めたい。加えて保護者へ活動の認知を広める手だてを取る必要がある。
教育課程	指導方法の工夫改善	児童の学びを深める対話的な授業を実践する。また、従来の教師主導の一斉授業にとどまらず、児童が自ら課題を設定・解決する授業を行い、主体性を育む。	A	対話的な学習については、児童の学び合いアンケートの結果を見ると、ペアやグループで学習を進めるのは楽しい様子が感じられる。また、前年度に課題となっていた、「対話を通して自分の考えが深め広がったか」という項目についても、15%アップし、89%の児童が肯定的な回答を行った。児童が自ら課題解決を行うには、教師が場を仕組むことが大切になる。どのようにすれば、良いのかを知るためにも実践交流や研修会の参加、授業参観等により、指導の工夫改善を行っていく。
課題教育	特別活動	縦割り遊び等、縦割り班活動を活発におこない、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的な態度を育てる。	B	縦割り班は、6年生を中心に計画的に活動を組んで全校生が楽しめるように工夫しながら遊ぶことができた。委員会裁量の活動においても各委員会が工夫を凝らした活動が見られ、自己肯定感を育むことができた。縦割り掃除については校舎改修のため、後半はできなかった。次年度に活動再開できたらと考える
	不登校	楽しく魅力ある学校、安心・安全な居場所となる学級づくりに全職員で取り組む。関係機関と連携し、個に応じた効果的な支援を考え、行っていく。	B	楽しく魅力ある学校、安心・安全な居場所となる学級づくりに努めているが、不登校の数は減らない。関係機関と家庭をつなぐことができたことは、一歩前進した。今後も家庭と学校がつながって、児童にとって良い方法を考えていく。また、体調不良を訴える児童については、健康面でも精神面でも相談できる方法などを知らせ、学校生活での不安感を取り除くことも考えていきたい。

<p style="text-align: center;">健康 教育</p>	<p>研修推進・保健・体育で、やわジャン・ジワツとシットの取組に加え、学習に向かうことのできる体づくりの1つとして神経系へのアプローチ・体幹を鍛える朝チャレの取組を行う。</p>	<p>B</p>	<p>朝チャレンジとして、毎月動画を更新しながら、児童が毎朝リズムダンスを行うことが定着している。朝から体を動かすことで、覚醒レベルが上がり1時間目に向けてシャキッとした雰囲気を持てる様子がある。また、体を動かすことが苦手な児童も楽しんで行う姿もみられる。神経系へのアプローチ・体幹を鍛えるという面でまだ大きな成果はみられていないが、動きのバリエーションを増やす等、改善をはかっていきたい。</p>
---	---	-----------------	---

3 学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> ・先生の日々の教育活動が大変だ。働き方改革が必要である。教科担任制がそれに結び付くことを望む。 ・地域との連携については、今後は事業内容の見直しや、新たな教育活動への参画を進めながら、より一層地域とともにある学校作りを進めていただきたい。 ・北っ子は、普段から真面目で純粋な子が多いと感じている。音楽会で全校児童が斉唱する際に、整然と整理していたのが心に残っている。一方で困難に遭遇した時に、傷つくことがあるのではないかと危惧している。 ・担任との教育相談やスクールカウンセラーとの面談、関係機関の紹介等、困った時に相談できる体制づくりを一層構築することが大切である。また、幼小、小中の連携が大切である。さらに、引きこもりの問題についても、ハローワークとの連携も含め、義務教育からの引継ぎが大切になってくると思う。 ・SNS やLINE によるトラブルがあると聞く。児童に正しく判断できる資質・能力を身につけさせてほしい。また、家庭に協力を依頼し、スマホやゲーム等に没頭させないようにすることが大切である。 ・ゲームに没頭するのは、他に楽しいことがないからではないか。さまざまな体験が積める機会が大切である。

4 次年度の改善の方向性

<p>今年度は、コロナ禍以前の活動が可能となり、学校行事や特別活動を中心に、地域や保護者の方々の協力を得ながら、子ども達がさまざまな「ひと・もの・こと」に出合うことで、「楽しい」と思える学校を全職員で目指してきた。</p> <p>1年を振り返り、校外学習や学校行事、縦割り班活動等の特別活動、地域行事、また友達と過ごす時間を「楽しかった」とあげる児童が多かった。そして、「勉強がわからない時は楽しくない」と答える児童も多かった。</p> <p>次年度も、地域、保護者との連携を大切に、児童一人ひとりの居場所づくりと特別活動に力を入れていきたい。さらに授業改善にも取り組み、「分かった、できた、頑張った、褒められた」で笑顔が溢れる児童を目指し、児童も職員も、「明日も来たい」と思う学校づくりを目指していきたい。</p> <p style="text-align: right;">令和 6年 3月 14日 学校名 丹波市立北小学校 校長名 小林敬子</p>

(行が足りない場合は、適宜増やしてください。)